みみずく谷の快少年

ここは信州霞郡ふかいもやにつつまれて、そびえたつ山あいの、みみずく谷の一角…

そのまた山おくの……

谷川をこえ……

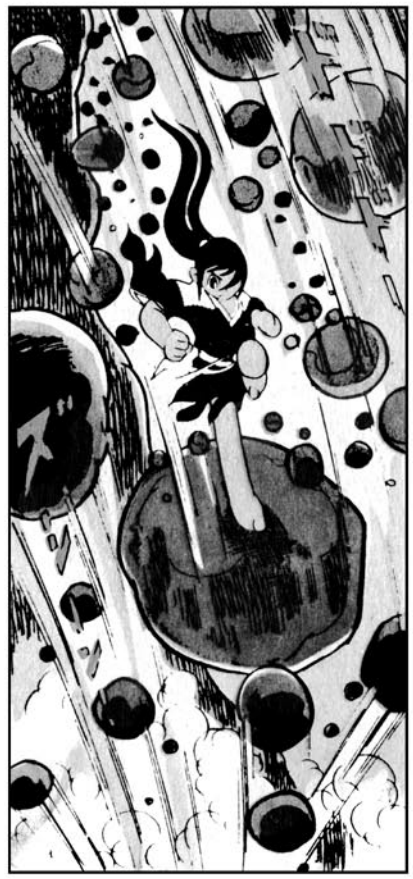
森をぬけ……

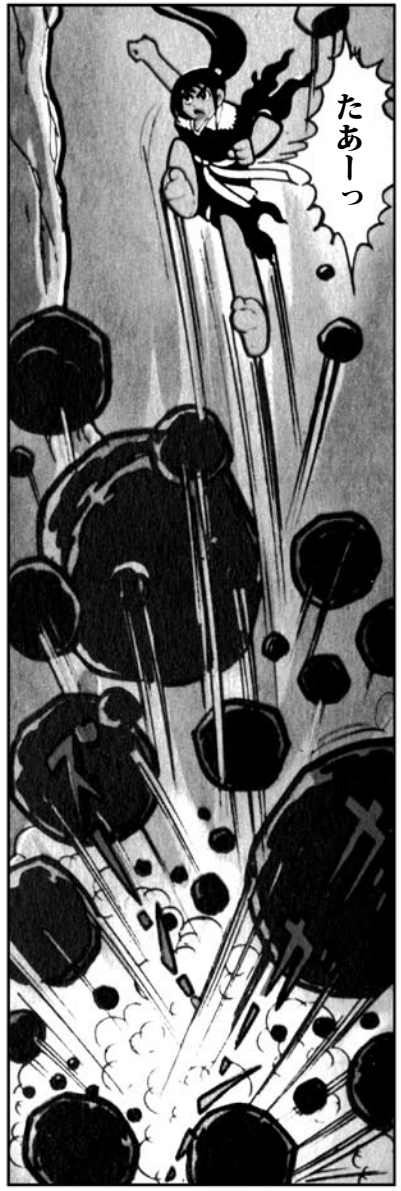
そして……

ふたたびつづく岩また岩…。

きょうはいい天気だねえ

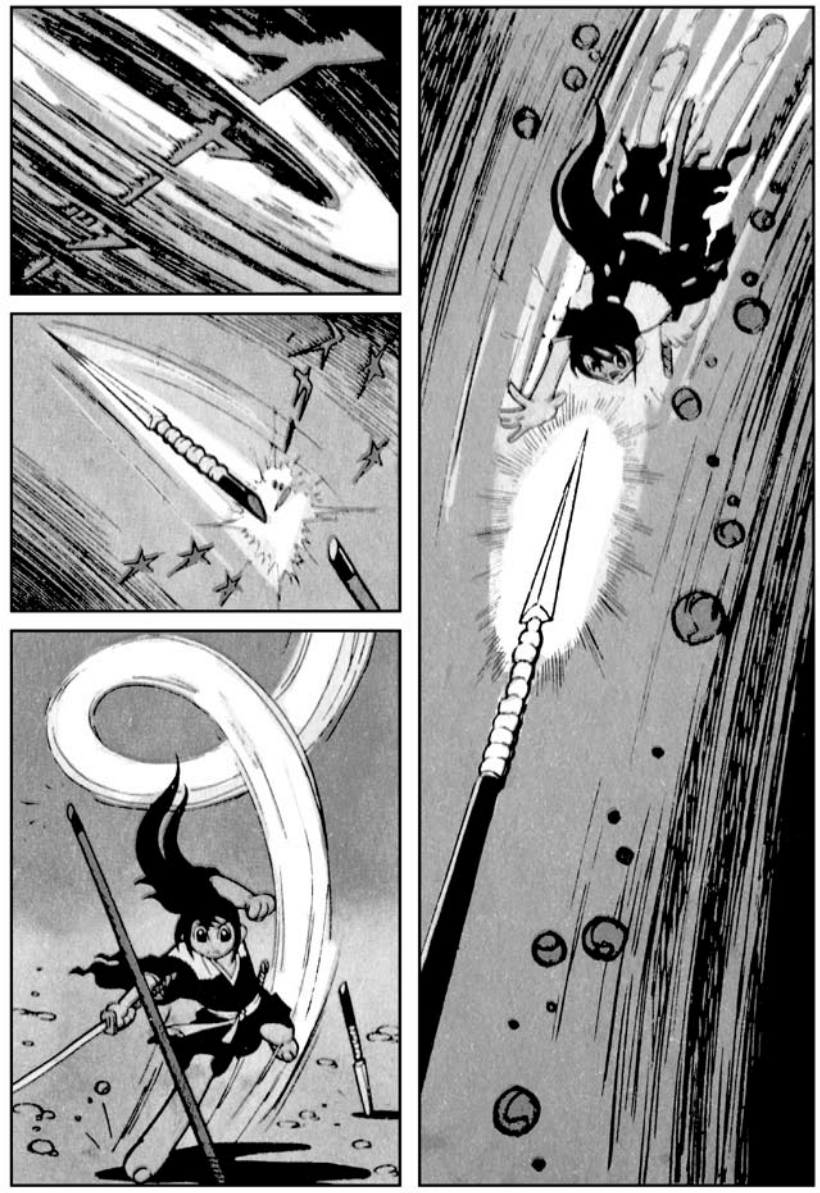
うんなかまをあつめておにごっこでもしようか…





こっぱみじん！　岩石がくだけちったしゅんかん　怪童のすがたは、また、もとの岩の上にあった。これが、甲賀流　岩石なだれわたりの秘術である。

ワッハハハ
ははははは
ついに
見きわめ
たぞ
五年間の修行が
実を
むすんだのだ
回転いなずまぎり
と名づけよう
はっ
あっ
六方
手裏剣
だ！
おっ
つむじ
風…
む！
きさま
は…



ふふふ
見たぞ
おまえの
回転いなずま
ぎり
みごとなわざだ

伊賀
流だな
……

やるか

六方
手裏剣
ほうせんか
投げだ
……
やああっ

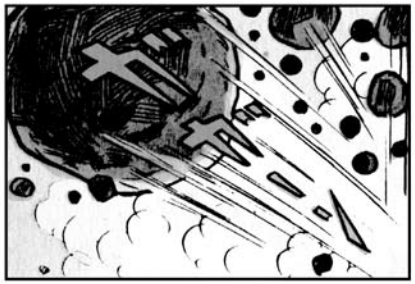
忍術ものしり帖
忍熊手
これは竹管に麻なわを通し、一方の先にカギツメをとりつけたものである。
必要なときは、右手で片方のなわをひくと、一本の竹管となり、高いところに、カギをひっかけて、のぼっていくのである。

ふっふふふ

たああっ

あっ

ははははは
石丸とくいの
岩石なだれ
わたりの術だ
うけてみろ！



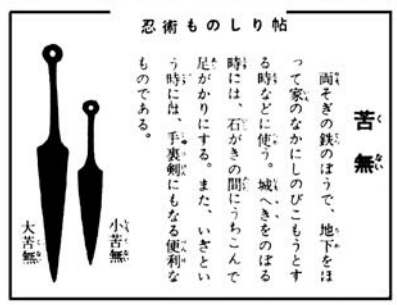
たああっ

ウワーッ
鳥よせの術だ

ピーッ
あっ
きえた！

石丸！
勝負は
また　この
つぎだ

にげ
たな！


忍術ものしり帖
苦無
両そでの鉄のぼうで、地下をほって家のなかにしのびこもうとする時などに使う。城へきをのぼる時には、石がきの間にうちこんで足がかりにする。また、いざという時には、手裏剣にもなる便利なものである。
大苦無
小苦無

まて！

石丸！
おうで
ない…
あっ
先生！

はははは
いまのは
伊賀の　はや
て小僧じゃ

はやて小僧
？…
六方手裏剣
ほうせんか
投げ　おそ
ろしいわざ
だった

見たぞ
石丸
回転いなずま
ぎり
よくぞ
見きわめた
みごとな
ものじゃ

だが　世の中は
ひろい　おまえ
の岩石なだれわ
たり　回転い
なずまぎり
だれがやぶらん
ともかぎらん
はやて小僧も
そのひとりじゃ
ゆだんするで
ないぞ
はい

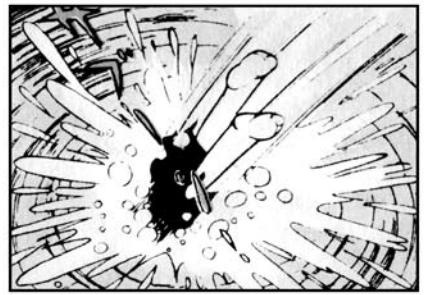
ついて
まいれ

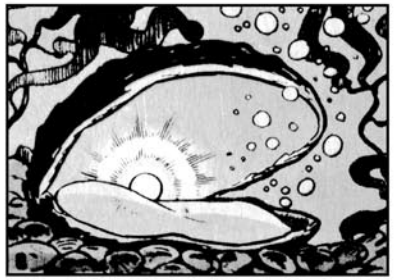
ううむ
こんな
ところに
ほらあな
が…

竜煙の玉

お！ほらあなの中に湖が

石丸 水の中へもぐるのじゃ そして大きなかいを見つけ その中にあるものを とってくるのじゃ
はい





？……
？……